

技術の視点—ポンプ編—

浜松市—MPの一元管理を効率化

最新クラウドを導入



伊代田主任

◇MP遠方監視の現状
浜松市は台地が多いという地形の特性上、316基のマンホールポンプ(MP)および44基のゲラインダーポンプ(GP)を有している。このうちMP224基、GP12基について遠隔監視システムを導入しているが、装置の老朽化やネットワークに使用しているISDN回線のサービス終了といった課題を抱えている。また同市は19市町が合併したこともあり機種が混在しており、効率管理に向けた一元化が望まれていた。

いためクラウド型の方が安く、ライフサイクルコストやサーバー設置スペースの観点で優位性の高いクラウド型の導入を決めた」と語る。

クラウド型システムを有する数社にヒアリングを行った結果、日本ソフト開発のシステムが、その機能や監視項目が同市の意向に合致したことからこれを選定した。現場への導入に当たって一般競争入札を実施した結果、平成30年度および令和元年度ともに住原企業が落札し、日本ソフト開発のOEM製品であるクラウド型監視システムE-Queas Cioudを納入するに至った。

すでに30年度は20基、元年度は202基について新システムを発注しているが、2年度も14基を発注すべく同様に一般競争入札を行う予定だ。

◇クラウド導入の経緯
同市上下水道部は、こうした課題を解決しMPの効率的な監視・運転を実現すべく、クラウド型の遠方監視システムの導入を進めている。平成26年度からシステムのリニューアルに向け、費用面や設置スペースの有無などについて、サーバー型とクラウド型を比較検討した。

同部下水道工事課管路保全グループの伊代田主任は「ランニングコストはサーバー型が有利だが、導入費用は独自でサーバーを抱えなくてよ

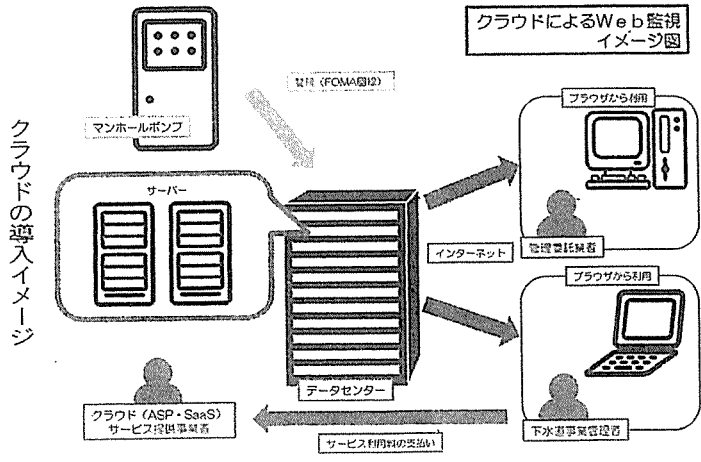
◇新システムの効果

新システム導入のメリットとしては、地域によって管理水準が異なるシステムを統一することで異常検知のスムーズな一

元管理が可能となる。異常発生時に遠隔操作で制御監視が行えるので、軽微な故障については、現地まで足を運ばずとも、遠隔操作によって設定を変えるといった応急的な対応が可能となる。

またサービス提供業者のデータセンターでの集中管理となるため、市側で中央監視システムのようなサーバー室等を設ける必要は無く、ランニングコストも月額利用料のみとなっている。令和2年度の発注をもって、遠方監視システムのリニューアルは完了するが、その後は現状では

まずポンプ場8カ所を中部浄化センターで集中管理するとして、実施設計に着手している。新システム導入により、効率的で安定的な運転管理の実現が期待される。



クラウドの導入イメージ

異常時応急対応も迅速に